

り、それが台風の移動と共に東に移動したが、境界を固定してあるため、この移動が予報出来ず、台風の移動も予報が十分出来なかったものと考えられる。

このような境界の影響を出来るだけ小さくするためには広い予報範囲を取るのが望ましいが現在の計算機の容量では不可能に近いので、計算速度はおそいがリレー計算機を用いた予報を計画している。またblance equationを機械を用いて解き、より正確な流線函数を求める必要もある。その際、今まではコレオリーのパラメーターを一定と考えていたが、それを緯度函数として各格子点毎

に変えて解くことを計画中である。

このように現在は先ず、流線函数を用いたパロトロピック予報で台風の進路の数値予報についてのかかなりな見通しを立てることを第一の目標にして研究を進めている。パロトロピック予報の完成後、台風の進路に対するバロクリニシティの影響を考慮し、さらに進んで台風に伴う雨、風等の予報に進むべきものと思うが、何と云っても、パロトロピック予報による台風進路の完成、しかもそれが新しく購入される704に適用する計算法も含めて完成されることが第一であると考えている。

日本気象学会昭和33年度総会ならびに春季大会告示

1. 場所： 気象研究所
2. 日時： 5月14日より5月16日
3. 行事日程： 下記の通り

行 事	日 時
大会 (研究発表)	5月14日 (水) 9:00 — 12:00
総合講演	〃 13:00 — 14:30
(研究発表)	〃 14.30 — 17:00
(研究発表)	5月15日 (木) 6:00 — 10:00
総 会	〃 10:30 — 12:00
学会賞授与・授賞記念講演	〃 13:00 — 14:30
(研究発表)	〃 14:30 — 17:00
(研究発表)	5月16日 (金) 9:00 — 12:00
降水機構シンポジウム	〃 13:00 — 17:00
総合講演 (日下部文雄 変貌しつつある航空気象学の問題について)	

1. 総会提出の議題募集

- 1) 締切日； 3月31日
- 2) 宛 先； 東京都千代田区大手町気象庁内 日本気象学会
封筒の裏に「総会関係」と朱書のこと
- 3) 内 容； 議題名ともに必ず提案理由をつけること

2. 研究発表募集

- 1) 講演申込み締切り； 3月31日必着
- 2) 宛 先； 東京都杉並区馬橋 気象研究所, 神山恵三
- 3) 様 式； 400字詰原稿用紙に氏名, 所属, 講演題目, 所要時間 (20分以内), 200字以下の抄録をそえて提出のこと

日本気象学会第10期役員選挙行事予定表

行 事	月 日
1. 選挙期日公示	天気2月号
2. 立候補届, 候補者推薦届提出締切	3月31日
3. 候補者名の公示	天気4月号
4. 候補者名簿, 投票用紙等を有権者へ発送	4月下旬
5. 投票締切	5月17日
6. 開 票	5月19日
7. 開票結果の公示	天気6月号

日本気象学会第2部分科会スケジュール

- 5月 降水機構 (大会と同時)
- 6月 乱流, 航空気象, 山岳気象
- 7月 数値予報
- 8月 気象教育, 災害
- 9月 レーダー気象
- 10月 生 気 候
- 11月 気象電気
- 12月 観測と測器
- 1月 太陽活動と気象
- 2月 長期予報, 数値予報
- 3月 航空気象

第一部分科会は第二部分科会と同時に開催する。開催日時は原則として第3金曜日とする。